

清流の息吹を訪ねて 5秒間の出来事 〜人間が知らない魚の世界〜

このコーナーは、市内山ノ内での釣りに関するアドバイスなどを行う磯フィッシュナビの代表で、「魚の専門家」の八鳥洋二さんから寄稿いただいています。

大船という大都会に流れる2河川（梅田川・砂押川）を舞台に、そこで逞しく生きる川魚にフォーカスを当て、観察に秘める新たな魅力を書いてきました。それも残すところあと1話に。そこで、この最終話では、私がオイカワの観察をしていて最も驚いた1ショットを皆さんにお届けし、今年の鎌倉淡水魚紀行を締めくくりたいと思います。

左の集合写真のものになったのは、1組のオイカワの産卵です。それに周囲も促され、もう1組も追加（計4匹）、その瞬間にメスの争奪戦に負けた下位のオス2匹が強引に割込み（計6匹）、産まれた卵を自当てに数十匹の魚が群がる（栄養価の高い魚卵は、そこに棲む川魚にとって最高のご馳走です）。その間たった5秒の出来事で、この駆け引きを人目も気にせず、延々と繰り返しているのです。

本能の赴くままに
人間の感覚で見ると、何とも無秩序で、かつ残酷に思えるかも知れません。しかし、魚たちにとっては「子孫を残したい」「自分の遺伝子を残したい」「生きるために食べたい」……、それぞれが本能の赴くままに行動しているだけであって、そのやり取りには一切の無駄がないことに気づかされま

す。
因みに、オイカワの産卵では300個ほどの卵を産みますが、その中で大人にまで生き残れるのは、ほんの1割にも満たないでしょう。つまり9割以上が他の生物に食べられるわけですが、この収支の割合が自然界では度々よいバランスになっているようです。

こんな身近な自然でも、多くの発見と学びがあることを、より多くの方に知ってもらえたら嬉しい限りです。



オイカワの産卵場となる砂地はお祭り騒ぎ
(砂押川プロムナードで撮影)

観察する誰もが 「新たな発見者」に

現在、鎌倉市内には名前のついていないものだけでも50力以上の川があります（支流含む）、どこにどんな魚が棲んでいるかは、まだまだ謎だらけです。

ですので、もし皆さんの近所に川がありましたら、是非とも、宝探的なワクワク感をもって覗いてみてください。もしかししたら「こんなところに魚がいる！」なんてことも。その瞬間、何気ない散歩道が「特別な場所」に変わるでしょう。